〔12番　高原邦子　登壇〕

○12番（高原邦子）

発言のお許しを得ましたので、一般質問したいと思います。

今回は、７月、８月の市民と語る会や、また一般の市民の方に田んぼへ行って話を聞いたり、事業所へ行って話を聞いたり、いろいろな意見交換の中から感じたことを一般質問したいと思います。そして、やはり、いろいろな議員さんと重なる質問が出ておりますけれども、申し訳ないですけれども、ご答弁いただけたらと思っております。

今回、問題に共通している背景にあるのは高齢化問題でありました。例えば、草刈は以前には地域でできていたものが、住民の加齢によってできなくなっている。老人クラブの活動状況の衰退、町内会長や区長、また、いろいろな組織の役にも年齢や体調不安でつけなくて、解散状態の地区。このままでは地域が衰退してしまう。

このことも、過疎地域対策措置法の目的条項の変遷でも分かりますが、50年前の過疎地域対策措置法の地域振興の目的が変わってきています。その当時は社会資本整備、道路とか、そういったものが今、最近は地域課題の解決へと変化しているんですね。目的が変化しているということです。

市長の議会開会日の行政報告の一文を見て、私はこれだと思いました。飛騨市経済連合会設立のくだりであります。市内企業に共通した課題に活発に議論し活動していくことで、飛騨市全体の発展につながると述べていた点であります。空き家の利活用、景観整備、子供や高齢者の移動手段の確保、外部人材の移住支援など、より住民に密着したまちづくりを進めていくことが望まれています。

住み続けていくには、課題解決型のまちづくりが必要なのではと思いました。身近なことがより良くなることを、政治で一番近い市政に住民は期待しております。コロナ禍を経験して、今までとは違う変革をしていかなければならないと思います。これは、ごく一部の人が取り組めばいいというものではありません。あらゆる分野の人々が、課題解決に向けて、心も行動も１つにしていくということがなければ、真の解決にはつながらないと私は思いました。

集合的な社会変化、コレクティブインパクトを念頭に置いて、今一度、まちづくりを考え直したらどうだろうかと思いました。個々の問題に早急に対処することや、応急処置はもちろん大切なことではありますけれども、それだけに追われていたのでは問題の根本的解決にはつながらないと思いました。将来に向けて、魅力あるまちづくり。そこに住む人が、誇りを持てる美しいまちづくりを、今、何をすべきなのか、私自身考えているところであります。

それで、質問に移ります。魅力あるまちづくりにするにはどうすればよいか。市長の昨日も答弁でもいろいろ感じることはありましたし、答弁に期待できるなと勝手に思っておりますけれども、今までの施策等を見る限り、コレクティブインパクトで向かっていきそうな気がするなと思いました。

しかし、市長に問います。市長が取られる課題解決型まちづくりとは、どのような方法、手法で取り組まれてきたのか。また、取り組まれるつもりなのか。コレクティブインパクトに関しての市長のお考えは、どの辺にありますか。

今、飛騨市は問題、課題を考慮しながら、まちづくりをどのように考え進めているのか。課題

解決のためにも、その戦略策定のためにも、望ましい目的を達成できるように、要素間の相互のつながりを理解していく、システム思考方法を用いて、それを俯瞰的に捉えていって、飛騨市の将来がかかっているまちづくりはこうなんだよというふうに示していただきたいんですが、どうでしょうか。

どの部署にも課題は存在しております。安心して生活できる。また、今よりも便利に快適な生活が実現されることを市民は願っております。

先ほどの上ケ吹議員と重なりますけど、教育委員会の所管では安心して登下校ができること。市民との懇談会でも出てきたことも含まれておりますので、ご承知おきください。徒歩通学、バス通学を含めてそれぞれの児童生徒の通学路を把握しているのでしょうか。草や木が生い茂って、視界不良で悪いことをされないかな、何かあったときのそういったことはないのかな。

また、バスの運転手さんの高齢化に対しての考え方はどうなんでしょうか。バスの大きさも人数に合ったものにしたりして、バス通学そのものも変革していくつもりはないのでしょうか。将来を含めてのバス通学の運行のあり方、そういったものを問いたいと思います。

また、先ほども部活動のことが出ておりましたけれども、今度は部活動に保護者の送迎はどのようになっていますかということです。事故等の責任論とか含めて、問題点への飛騨市の対応や考え方を問いたいと思います。

ほかの自治体ではいろいろな捉え方があって、親の部活動の送迎とかそういったものを一切認めない。先生も認めないとか、委託先だけに認めるとかいろいろな方法とか、そういったのは、どうもそれぞれの公共団体の判断で任せられているみたいなので、その点、飛騨市の対応を伺いたいと思います。

先ほどもありましたけども、安定的で信頼のおける教育のためには、教員の体調管理も重要であります。中日新聞とかいう岐阜新聞等々でいろいろな報道がなされておりまして、勤務実態が過酷である旨が報道されていました。県教職員組合連絡会議というのに、飛騨市も構成員になっていると記されておりましたけども、飛騨市においての教職員の働き方での問題、課題はないのでしょうか。そのことへの対応はいかなるものなのでしょうか。改善、前進しているのか。この点につきましては、前進しているような答弁だったと思いますけれども、お答えいただけたらと思います。

これは、思うのですが、先ほどのコレクティブインパクトも関係してきますけども、私は、課題解決型、学校のことに関してもいっぱいあると、教育長などはよくご存知だと思うんですね。

学校へのいろいろな保護者からの注文とか、子育てに対する悩み等々いろいろなのが、今、どうでしょうか。ＰＴＡの役員とか、ＰＴＡ役員に対する担当の先生だけは関係していて、私はやっぱり保護者全員がこの危惧されている課題、こんなことを今、何々小学校では問題なんですよということを共有していただかなければいけないと思うんですね。

同じように、子供たちの健やかな成長を、ごく一部のＰＴＡの役員だけではなく、みんなで見守っていく。そういった方策、取り組みませんかねということなんです。その辺を教育委員会のほうに問いたいと思います。

もう１つ、これは谷口議員からも質問があった草刈等々のことで恐縮なんですが、やはり、先ほど言いました過疎法の中の目的のところに美しく風格ある国土の形成というのがうたわれて

おりまして、そして、地域振興とかいろいろの中に景観整備も整えていきましょうというようなところが入っているんです。ですから、お伺いいたしたいと思います。

市民の声で要望が多いのが、道路の通行や景観上からも、草刈や木の伐採が多かった。面積の広い飛騨市においては大変な経費もかかる事案でありますし、どのように考えていらっしゃるのかなということです。

市内各所で、いろいろ対応されている伐採されているところも、私は見歩いて知っておりますから、対応されているのは承知しておりますが、何よりも幹線道路だけは早急に解決すべきではないかなと思っています。市の所管ではないと思うんですが、太江から神原峠のところ、部長も毎日通っていらっしゃると思うから分かると思うんですけど、あの木から冬場どっと雪が落ちてくるから、そういったものが、道路にだけは雪が落ちてこないように、迷惑にならないように、枝だけでも切ることができないのかと。これは幾人もの方がおっしゃっています。ドライバーに不安を与えることだけは、早急に対処してもらいたいと思いますが、よろしくお願いしたいなと思います。

安心安全は、日頃の積み重ねだと思うんです。草刈り、木の伐採についての対応はどのように考えているのかを伺いたいと思います。ハインリッヒの法則というのがあるんですよね。いろいろな大きな事故とかそういったものが起こるには、陰で30や50ぐらいの、それに似たようなことが起こってきている。そうしますと、今、この雪でヒヤッとした人が何人もいるといったことが、このまま黙認していると、私は大きな事故につながるのではないかなと思うんです。だから、これだけほかの議員さんも、みんな草刈とか木の伐採等々には声を上げているんですから、「ありゃりゃ、ハインリッヒの法則だったなあ。」なんて言われないような答弁をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市長　都竹淳也　登壇〕

△市長（都竹淳也）

課題解決型のまちづくりというテーマでございます。コレクティブインパクトの活用というお話がございました。コレクティブインパクト、実は存じ上げませんでしたので、質問いただきまして、調べまして私なりに得心をいたしました。

簡単に説明すると、コレクティブインパクト、2011年にアメリカで提唱された考え方ということでございまして、複数の異なるセクターがある社会課題を解決するために共同してインパクトを創出するというふうに定義されている。複数の異なるセクターというのは行政とか企業とかＮＰＯとか財団、社団といったことを、その他いろいろ団体もあるんでしょうけれども、そういったことで定義をされています。まさしく得心したというふうに申し上げましたけども、そのとおりだなというふうに思っています。

飛騨市は人口減少先進地でありますから、いつも申し上げているんですけども、課題先進地なんですね。今までの市政運営の中でも、本当によくぞこれだけ次から次と課題が出るというほど毎日課題が出てくるわけでありまして、それをどうやって解決するかというのが、もう市政そのものと言っても、差し支えない。

最近よく課題解決型の人材育成に関して言うんですが、吉城高校なんかで授業するときも、飛騨市の政策というのはもうイコールそのまま全部課題解決と言ってもいいんだというそういったことを言うんですけれども、そういった中にあって、市政運営の中で行政だけで解決するには限界があるということも、同時に日々感じているわけであります。

したがって、市内の企業とか団体、さらに外から心を寄せてくださる方々、関係人口と言ったりしますけれども、そうした方々と協働、連携するということが重要でありますし、その中で政策の効果、いわばインパクトを最大化していくという意味では、これぞコレクティブインパクトだろうなというふうに思うわけです。

私自身はその中で一番大事にしておりますのは、それぞれのプレーヤー、先ほど複数の異なるセクターというふうに言いましたけども、それぞれのセクターの強みを見つけて、それを持ち寄る、組み合わせる、相互に補完するような関係を作るという強みの持ち寄り体制を作るというのが、一番大事であるというふうに明確にずっと考えてきました。

それで、具体に幾つか例がありまして、例えば飛騨市学園構想というのを、今、進めております。これは子供の課題解決能力をいかに育むかと。しかもそれを保育園から高等学校を１つの学園とみなしたときに、どういうふうな能力を育むことができるか。

しかも、それを地域とか民間企業とか地域住民、市民が一体となって育んでいこうという構想でありますけども、この中には大きく３つプレーヤーがありまして、１つは学校の教員です。これは、学校教育の現場をよく知っているという強みがあり、それからもう１つは市民でありまして、地域住民と言ってもいいと思いますが、これは地域をよく知っている、また、社会をよく知っているという強みを持っています。

そして、それらを俯瞰的に見て調整する役割、それを持続的に担えるセクターとして、民間企業をその中に位置付けているわけです。もちろん、今の俯瞰的に見て調整する役割というのは、市そのものがここに入るわけでありますけども、市も加えれば４つということになりますが、教員と市民と民間企業と市ということになるわけですね。

それで、この中で民間企業というのが入っているのがまた特徴でありまして、昨日も出てきておりますけども、株式会社Ｅｄｏがずっとパートナーとして、そこをやってくれています。その中で、若いメンバーで立ち上げた会社が育っていく様子も、我々ずっと見てきておりまして、そうするとそれぞれが自分にない役割を担って、それが組み合わさっている。それがチームとして１つの目的を共有して進んできているという例でございまして、これが子供の課題解決能力を育むという課題を解決するための、まさしくコレクティブインパクトの例であるというふうに思っています。

そのほかにも、ヒダスケ！、あるいは広葉樹のまちづくりも同様な仕組みになっておりますし、例えば河合、宮川で展開しております、買い物弱者対策から生まれてきました地域複合サロン。これもコープ岐阜とかおたがいさまひだ、それから飛騨市、それから地域住民、飛騨市の中の企業、商店、これが一体となった例であります。

そうした行政だけが取り組むのではなくて、行政が弱い部分、あるいは各セクターが弱い部分は、強みを持った人たちを頼る。強みを持ち寄るということを意識して進めるということでやってまいりましたし、これを今後もしっかりと進めていきたい。これが議員からのご質問のあった

コレクティブインパクトを最大化する手段であり、飛騨市の課題解決型のまちづくりになるのではないかと考えている次第でございます。

〔市長　都竹淳也　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて、答弁を求めます。

〔教育長　沖畑康子　登壇〕

□教育長（沖畑康子）

では、私からは２点目の児童生徒の登下校時の安全と教職員の働き方についてお答えいたします。児童生徒の登下校時の安全につきましては、各学校の実態に応じた学校安全計画に基づき、学級活動や学校行事を中心に安全指導を進めております。

４月の学級活動では、通学路の確認や安全な登下校の仕方、スクールバスの乗降の仕方などを確認しています。また、冬季には積雪、凍結道路の歩き方や、落雪、雪庇への注意喚起などを確認しています。学校行事では、警察と連携した交通安全教室や自転車教室を実施するなど、講話と対話をとおして、児童生徒の安全への意識を高めているところでございます。

また、通学路については、教育職員やＰＴＡ地区委員が協力して点検し、危険箇所がある場合は、児童生徒の安全を第一に考え、迅速に対応に当たっています。さらに、家庭地域からの通学路情報を基に、長期休業日の前後には通学班集会や地区別安全集会を行い、一人一人が危険な場面や危険箇所を確認できるようにしているところです。

地域学校協働活動の取り組みの１つでもあります、小学校児童の登下校に同行していただいている見守り隊の皆様には、子供たちの安全安心な登下校にご尽力いただいているところです。

ほかにも、連れ去りや不審者の声かけ、登校の急変時の対応などについても、全校放送を使って、安全な歩行や危険回避を呼びかけています。こうした安全指導によって、児童生徒が自他の命を守る意識を高め、通学路における安全な歩行や危険回避の方法を学んでいます。

次にスクールバス運転手の高齢化問題については、私どもも心配をしているところですが、神岡町を中心に、バスの運行を受託しておりました事業者が、９月末をもって業務を終了することになりました。新たな事業者が受託し、業務を引き継ぐことになりましたが、当面は今の運転手が業務に当たられ、並行して新規に運転手を募集、採用していくと伺っております。

また、休日の部活動送迎については、河合町、宮川町のみ土曜日の上下一便ずつスクールバスを運行しています。古川町内の一部については、自転車を認めていますが、他の地区の遠方の生徒は保護者の送迎です。

スクールバスの運行については、当分の間は現状のような方法で継続することができると考えていますが、今後は部活動の送迎を含め、地域の方の協力を得ながら、デマンドタクシーのような方法もできないか、地域部活動と併せて検討していきたいと考えています。なお、保護者の送迎時における事故の責任を市が負うことは考えておりません。

教職員の働き方についての課題は、時間外勤務時間の縮減と経験のない種目の部活動指導です。上ケ吹議員にもお答えしたように、現在各校から毎月の時間外勤務時間の報告があり、特に時間が多い教職員については管理職が面談を実施し、関係職員との連携を図りながら業務改善に向けて取り組んでいます。時間外勤務時間が増える要因としては、中学校の部活動指導があります。

教育委員会としては、競技種目の経験があり、専門的な技術指導ができる部活動外部指導者や教員の代わりに指導や引率ができる部活動指導員を委嘱したりして、負担の軽減を図っているところです。

学校ではガイドラインに沿った活動時間を守ることや、学校の日課を見直し、終了時間時刻を早めるなどして改善を図っています。今後、地域活動への移行が進むことで、大きく軽減されることが考えられます。

今、中学校部活動を地域活動へ移行するための準備を始めています。この地域活動は、スポーツ系や文化系の部活動を地域活動に移行するだけでなく、飛騨市の資源を大いに活用したまちづくり活動に取り組んでいらっしゃる団体等の活動に中学生が一緒に参加するような取り組みについても位置付けていこうと考えております。つまり、飛騨市学園構想が目指しておりますみんなで育て、みんなが育つ魅力あるまちづくりと大きくつながってまいります。子供と大人が一緒に地域活動に取り組み、関わり合う中で、子供だけでなく、大人も学び育つことができます。

議員がおっしゃるとおり、予測困難な時代だからこそ、様々な課題を学校と保護者と地域全体で共有し、その克服に向けて地域総がかりで取り組むことはとても重要だと感じています。大人も子供も互いに知恵を出し合いながら、地域活動に取り組むことが、魅力ある町をつくるための第一歩だと考え、進めているのが飛騨市学園構想です。大人も子供もともに語り合い、協働しながら、市民意識を持った子供たちの健やかな成長見守っていく、魅力ある飛騨市にしていきたいと考えております。

〔教育長　沖畑康子　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて、答弁を求めます。

〔基盤整備部長　森英樹　登壇〕

□基盤整備部長（森英樹）

それでは、３点目の市内道路の草刈等についてお答えします。午前の谷口議員とのご質問と重複する部分について、繰り返しとなるところもありますので、簡潔にお答えさせていただきます。

私道の除雪については、本来道路管理者である市が対応すべきものと考えておりますが、現実には限られた予算の中での対応となり、全ての路線を網羅できないのが現状でございます。こうした中、沿線地域の皆様から、道路除草のご協力をいただいておりまして大変感謝を申し上げます。

しかし近年、提出いただいている地区要望の中には、高齢化により、今後、指導の除雪はできないといった内容のものも増えてきており、市ではこうした事案に対し、予算の範囲で建設業者等へ外部委託するようにしております。

振興事務所を含む市全体の体制としましては、職員による道路パトロールを週二回実施し、破損箇所や危険箇所の早期発見に努めており、木の枝が伸びたり、降雪により垂れ下がる支障木等については、その都度除去するよう努めております。

またご指摘の幹線道路につきましては、車の速度も速く、交通量も多いため、一転、大事故につながるおそれもあることから草木による視界を妨げる箇所など、交通安全上の視点を重視しな

がら、危険と判断した箇所は、早急に市で対応するよう心がけております。今後も道路パトロールや、地域からの通報、ＳＮＳなど、様々な形で情報収集しながら、安全で安心して通行できる道路環境維持に努めてまいります。

〔基盤整備部長　森英樹　着席〕

○12番（高原邦子）

市長のやっていらっしゃる施策というのは、市だけではなくて、民間もいろいろなところを取り入れてやっているので、そこはいいんですが、問題は本当に課題解決になるのかというところまで踏み込んでいるのか。その場その場はいいんだけれど、どうなのか。

今の草のことでもそうですけど、本当に草刈とか、そういうのができなくなっているという市民の多くの声を聞きました。そして、本当に体が動けばやったし、また人口は減ってきている。だから、やっぱり、どうにかその人が足りないというのを、根本的に何とかというふうな課題解決の最終目標がどこなのか、本当に課題解決につながるのか。

私は、これを書いているときに、応急処置は必要だと自分自身で感じました。でも、心の中では、うーんと思いながら書いたのはどうしてか。目の前で血を流している人を見て、これは何でか考えているよりも、まず止血する方が大事。そういう意味で、応急処置は大事だと思うんですが、でも、根本的なことを考えるならば、なぜこのような、けがでも何でもない血が流れているのかとか、いろいろなことを考えて、本当の根本的なものを知って、そこを解決していかなければならないということが、本当の意味の課題解決ではないかなと思ったんですね。

そうしていくと、昨日でしたか、例の猫の話のところだったかな。ふるさと納税のあり方も、あれは結局はシステムとか、その内容を知らない人がやっぱり多かったということで、その辺をきちんと説明責任を果たしていきますと言うような形になったと思うんですね。

私が今、言っているのは、ごく一部の人たちだけがやっていればいいというものではないですよと。本当のまちづくりというのは、みんなが心を１つにしなければ、市民みんなが、こういう町いいなと皆が思っている町というものを、私はこれから市長に俯瞰的に示していってもらいたいという思いなんです。

というのは、自分自身もすごくイライラすることがあるんですけど、その都度、その都度応急処置をしてきたので、実は解決しているんですけど、でも、最終的な根本的な解決に何にもなっていない。このままずっと応急処置の繰り返しかということが多いんです。これを別の言い方をすると、合成の誤謬ではないかと思うんです。その都度その都度、その当てはまることを知っているとしているんですね。ところが、全体から見ると、なんだなんてなかった。

そこで、私はいろいろな角度からいろいろな民間もそうですけど、いろいろな業種の方、多くの方々に。だから二十何社、三十何社、市長が最初に言われた経済界を作ったとき、ああいった形で多くの人たちに入ってもらい、それぞれのシステムの中で得たものとか、そういったものをぶつけ合いながら、これがいいんだというものをやっぱり示していっていただきたいんです。

そこがやっぱり足りていないから、いろいろなところへ行っても同じようなことを聞くし、今、お金の財政的なことがないかがかかってくるから全部できませんよと。分かりますけど、では、やっぱり締め切りを決めましょうよ。どうしたら解決できるのか考えませんか。知恵を出し合って、そしてこういうふうにやっていくんだとか、昨日の水上議員のときだったかな、香愛ローズ

ガーデンの施設を使いたいために、地域の方々がいろいろなことをしようとしている。それを止めてしまっている一面がある。あんなにもったいないことをしてどうするんだと思うんです。

だから、地域の人たちも巻き込むような、そしてみんなに神岡町だけではなく、古川町、宮川町、河合町、みんなからこういった飛騨市いいな、誇りが持てるな、シビックプライドでそういったものを示していってもらいたいなと、市長に願っているんですが、昨日の前川議員の一般質問では、令和５年に二期目の最終年度になるということで、どうでしょうかね。やっぱりみんなを巻き込んで、みんなをワクワクさせる飛騨市にしていこうよ、誇りを持っているよ、美しいよというのを、そういった思いやってもらえませんかねと思うんですけど、いかがですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

とても難しい話なんですけど、例えば草刈の話１つにしてもずっと出ているんです。ずっとこの問題というのは出続けて、解決していないんです。それで、解決するのかというと多分解決しないです。

今の現代の問題、社会課題というのは、解決しないのが特徴だと言ってもいいと思う。それで、根本的な解決にならない。それでどんどんどんどんまた新しい課題が出てきて、解決にならないという課題なんです。なので、そこがその一発解決というものがないというところの難しさをはらんでいるというふうに言えばいいと思う。

先ほど、目の前で血を流している人がいたときに、どうするんだという例えがありましたけれど、今、目の前で血を流している人がいる。それを対処しなければいけないというのは当然なんですが、それをトリアージしなければいけないということになるんです。目の前に血を流している人が10人いる。でも、10人全部救えないので、より重症度の高い人から対応していくという、このトリアージの考え方を入れざるを得ないということなんです。したがって、一発解決しないんです。

草刈も昨日来、いろいろなここでの議論もそうなんですが、全部やるのが難しいので、どうしても優先順位を決めて、ここに絞ってということをやらざるを得ない。そうすると、ほかの地域は何も進んでないのではないかという議論は絶対に出ます。道路の整備とか、例えばちょっとした地域要望が出てくるところでも、この前もあるところに行ったら市長にもう毎年何十年以上要望しているんだけど、ちっとも市で聞いてもらったことがないという話なんですが、その地区の要望を全然聞いていないわけではなくて、聞いているんですけども、優先順位があるので、そこまでこないんです。

ところが、住んでいる方からすると、自分の目の前とか、家の前の問題なので、ちっとも市は対応してくれていないということになるということになっていて、それが予算がないからと言っているうちはある種言い訳になったのでよかったのですが、今や予算ではなくて、やる人がいないという問題がそこにさらに出てきているものですから、なお難しいということになっています。

ただその中で、議員がおっしゃったように１つのみんなが目指す像を作ったらどうかということも非常によく分かるんです。よく分かるのですが、またこれがどんどん今、多様化の社会というように、１つの目標ではなくなっている。

皆さんの目指す地域像というのが、単色からどんどんモザイクになっていて、ものすごく複雑な色になってきているという問題がまた他方であって、そうすると、それの持ち寄りだと思うんです。個々のところで、いい町を目指そうとする取り組みの持ち寄りが、全体としての色を変えていくという姿を取らざるを得ないので、何か全員が共通して目指すことができる、この夕日を目指して走ろうよみたいな世界ではなくて、皆さんがそれぞれの自分の身近なところでの幸せを追求してくという像を取らざるを得ないというのが、現在の特性ではないかと思うし、これはもっとこれから複雑化してきますので、その中で行政をやっていくという難しさの中に直面しつつも何とか、それぞれのところで、少しでも前向きなワクワク感が出るように、そういったことで市政を取り組ませていただいているということでございます。

○12番（高原邦子）

私は、今、ダイバーシティー、多様性とかもろもろ言っていますけど、私はそれの逆なんです。なので、いろいろな考えのある人がいるから１つの目標に向かえないというのは、勝手な決めつけだと思うんです。だからこそ人口が減ってきて、みんなで目指すところはここですよと決めて、そこに至るまでの世論形成というのは本当に大切だと思うんです。

今、パブリックがありまして、プライベートがあって、その中間のところがコモンセンスと言うか、共有の共ですね。私は共感を持ってもらえる、共感を増やす施策を心がけないと、いろいろな考えの人がいるんだからいいとか、プライオリティーで決まっているからいいんだなんて、そんなふうでは美しい、そして希望の持てる町にはなりませんよ。

やっぱり誰も取り残さない、そういったふうでやっていかないと、と私は思うんです。それで私自身が本当に悩んだりいろいろ思っているんです。それで、今、命題を出してテーゼを出し、アンチテーゼも出しました。それを合理してジンテーゼにし、まだここからいろいろな課題がないことがないというのが課題とおっしゃったけど、やっぱり次々に課題は、そうやって弁償法を使っていっても、課題になっていくことは分かっているんです。

でも、私は市長にお願いしたいのは、できるだけ多くの人たちの共感を得ること。11日に上梓されたばかりの本を11日に読んだんですけど、これは人を動かす正論の伝え方という本なんですけど、とてもためになりました。やっぱり正論を言うにはしっかりとしたものも必要だけれど、周りの相手を思いやる、その人たちの立場もしっかり理解して、その上でいろいろなシステムのことも分かり、お互いのそういったものを含んで、説得ではなくて納得してくれるようなそういったものに人は共感を持ってくださる。ですから、いろいろな考えのある人はもちろんいますけど、でも納得をしてくれる雰囲気をつくり出す市の市民が、みんな市長の考えはというような世界を目指すということは、私は間違っていないと思うですけど、どうですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

皆さんが納得してくださるというのは、望むものというのが違う中でも、追求していかなければいけないと思っているんです。ただそれは、具体的に落として考えたときに、やっぱり市民生活の中で市民の皆さんが望むものというのは身近な課題なんです。身近な課題なので、身近な課題に対してしっかり１つ１つ対応しているという姿が見えれば、それは納得につながるんだろう

と思うんです。

ですので、それはある地域では買い物の問題かもしれない、ある地域では交通の問題かもしれない、ある地域は草刈の問題であったり、あるいは防災の問題だったり、多種多様なところに渡る。でも、身近なところでしっかり汗水流しているという姿が伝われば、それは納得になっていくのではないかというふうに思いますので、具体的に何か１つに決めて言うよりも、そういうたくさんの取り組みを無数にこなしているという姿が納得につながってくんだと思っているので、施策の数が飛騨市役所は恐らくかなり多いんです。かなり多くて、職員にも大変苦労かけているんですけども、それは小さいことでも、とにかく細かにやっていくことが、市政の信頼なり、納得につながるんだという思いの中でやっているということで、そういった具体策の中で考えていくのかなというふうに思っています。

〇12番（高原邦子）

いろいろな手法がありますし、素敵な市になって、誇りを持って、飛騨市で生まれ育ってよかったなと子供たちがずっと思ってくれるような町、そしていろいろな課題を解決していく姿勢というのが、やっぱり市民にいつか分かってもらえるし、もう少し共感を持ってもらえる努力はしたほうがいいし、それがいいのではないかなと私は思っています。

それで、教育長のほうなんですけど、大体、上ケ吹さんのところで分かったんですけども、今一度、スクールバスの運行というのもこれだけ人口が少なくなってきた中でどうあるべきか。それでもって、新しいところがまた雇いますとかと飛騨ゆいさんでしたか、初日にあったと思うんですが、これはやっぱり保護者からバスの運転手さんの年齢が高いのではないかとかという意見が出たとかいうところからも話がきているので、今一度、スクールバスをどういうふうにやっていくのかということはしっかりと考えてみてもらいたいなと思います。

いろいろなところでされているということは分かりましたけど、ＰＴＡの役員さんだけではなくて、みんなお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん方に困っていることとか、そういった情報は全部伝えて、地域みんなで見守りとか、そういうのもできると思うので、この辺はさっきも言いましたように、共感を持ってもらえるところを多く作っていただけたらなと思いますのでよろしくお願いいたします。

もう１つは通学路のことなんですけど、いろいろなことを教えて、バスならバスから家までとかを、本当に先生たちみんな行っているのかなということなんですよ。草がぼうぼうで、視界に入りにくいようなところだとやっぱり不審者とかも心配だけど、バス通学なんかだと獣も心配なんですね。

私が感心したのが、学校の先生で家庭訪問というのはあるんですかね。でも、いろいろなときに季節を変えて、家庭訪問しなくても行ってもらいたいなと思うんです。私、高校生のときに岐阜にいたんですけど、高校の先生が私はちょうど留守していたんですけど、家庭訪問に来ました。そうしたら、高校の先生がいろいろなことを聞いていかれて、うちの主人は神岡なんですけど、神岡までその岐阜の先生が来て、この生徒はどんなところにどんな環境でいるか見に来たんです。そのくらい生徒を大切にしていた先生がいらっしゃったんですね。それを思うと、人数が少ないからという言い方はおかしいんですけど、学校の先生にも何々ちゃんはこういうところから、こう通っているとかということは、ぜひ知っておいてもらいたいなというつもりで、これはお伺い

しました。

草刈とかそういったものも、徒歩の通学の子たち、山之村は特に木が生い茂っていますから、山之村の要望をしっかりと、人数が少ないからと言わずに聞いてあげて欲しいなとは思います。みんなどこの学校に通っていても、大切な飛騨市の宝でございますので、よろしくお願いしたいなと思います。

それで、最後は森部長のところなんですけど、やっぱりいろいろ刈ったりしているのも知っていますけれども、本当に職員の方は大変だということは分かっていますけど、今一度、木が道路にオーバーしているのだけは市道でもありますので、それだけはチェックを入れて、事故につながらないように。それだけ、チェックするというふうに約束してもらえませんか。市道に関しては市道に木が出ている。確か、人の土地から生えているものでも、市の土地のほうに来ていたら、そこはカットしても民法では何も罪にはならないはずですので、ぜひそういう余分な木はカットしてくというふうにして、自動車の運転の妨げにならないようにチェックしていくというふうに、雪が降る前にやってもらえませんか、どうですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

そうですね、降雪期になると雪の重みで木というのは反ってきますので、思いもかけない雪の重さで倒れてくるというのもあるものですから、想定するのは非常に難しいんですけども、前にそういった危険な状態であったようなところは重点的にパトロールしてチェックしていきたいと思いますし、民地の木ですと、なかなか伐採までは難しいんですけども、枝を払うぐらいであれば所有者の同意をいただいてやることは可能ですので、降雪前にしっかりチェックはしていきたいと思います。

○12番（高原邦子）

それと、まちづくりというものを、私は今回いろいろな形で考えてみたんですが、やっぱり飛騨市は広いし、いろいろなところへ行って、いろいろな話を聞いてみて、いろいろな考えがあるんだなとは思っています。

私、教育委員会のところでもあれなんですけど、交通で一生懸命指導で手伝ってくださっている方々もいらっしゃいますよね。ああいった方にもやっぱり学校が抱えている問題点とか、そういったものもお話しっかりとして、そしてよく見ていらっしゃるところがあるから、協力してくださるところはいっぱいあるんですね。それで、だから、そういった情報は情報元をいっぱい増やすということ。

学校のことにも共感を持ってもらう人を増やすということをお願いしたいし、森部長にも、もうあちこちに情報屋さんというか、いろいろなことを教えてくださる方、職員さんが全部を回れないでしょう。だから、そういったことに関して、いろいろ教えてくださる方とか、本当にボランティアでもいろいろ回って気が付いたらという人がいますので、そういう人の言葉を嫌がらずに、本当に親切な人も、本当に真心を込めてお付き合いをすると仲間になりますから、仲間を増やしていっていただきたいんですね。

お金とかそんな関係なくても、ボランティアの精神の人も結構いますし、共感を持っていただ

けると、いろいろなところでいろいろな力を出してくださるんですよ。だから人間関係で、その辺もちょっとお力を借りて、要は事故につながらないように、景観保全も大切な飛騨市の重要事項だと思いますので、よろしくお願いしたいなと思います。

すみません。以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

〔12番　高原邦子　着席〕